



# ICTを用いた 長崎県の地域医療連携

| 放送日時 | 2016年1月3日 日 | Kテレ長崎  
午前9時30分～10時00分

今、長崎県の地域医療でICTを駆使した  
**あじさいネット**が活躍しています。

ICTとは、Information and Communication Technologyの略で、インターネット通信を利用して情報を共有する技術のことを言います。

総合病院などで検査や治療を受けた患者が、通院しやすい居住地域の診療所で治療を継続する場合、診療所の医師がインターネット画面で過去の検査データや診断結果、治療内容を確認することができる**「病診連携」**。

訪問診療(在宅医療)に従事する医師が、iPadなどタブレット端末から診療情報を入力し、その情報を訪問看護師や介護スタッフに伝達できる**「医療・介護・福祉の連携」**。

僻地や離島で撮影したCTやMRI画像を、放射線専門医がインターネットを通じて診断できる、救急医療にも生かされる**「遠隔画像診断」**。

## 周産期医療支援システム「すくすく」

長崎県には、「あじさいネット」のICTを利用した周産期医療支援システム「すくすく」があります。

これは、妊婦の容態が急変することがある周産期(妊娠22週から生後7日未滿までの期間)に、救急搬送先の病院で、患者の過去の検査・診療データがすぐに判り、適切な治療が施せる画期的システムです。



番組では、長崎県の地域医療連携システム「あじさいネット」とはどのようなものなのか？  
果たして患者にとってのメリットは何か？ セキュリティは大丈夫なのか？  
運用開始から10年余りが経過した現在から未来への展望などを詳しくレポートします。